

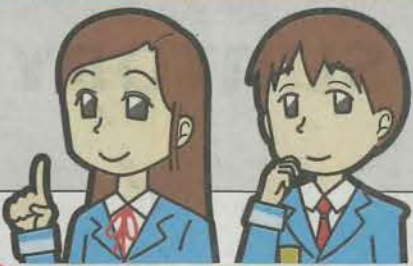
学ぼう産経新聞

毎月第1土曜日掲載

「月刊学ぼう産経新聞」では、「個性」や「友情」などをテーマに実際の記事をピックアップ。じっくりと考え、話し合うきっかけを提供します。

今月のテーマ

働くことで社会に貢献する



この記事を読んでみて!

令和3年2月6日付夕刊から再構成

昨年末、大阪市内の会社に勤める90歳の女性が「世界最高齢総務部員」として、ギネス世界記録に認定されました。会社に長く勤めている間に、社会の大きな変化や不景気にもさらされましたが、学ぶことを続けて「成長してきた」といいます。働くことで人生の充実感を得て、会社や社会にも貢献してきたこの女性の考え方を記事で見ながら、将来の生き方について考えてみましょう。

シニアも長く、楽しく



「働くことに喜びを感じています。工夫をすればほとんど楽しくなる仕事に、没頭してしまっ」
大阪市内のサンコーインダストリーで、現在も総務部長付課長を務め、経理や庶務を担当している。平日午前9時から午後5時半までのフルタイム勤務。新型コロナウイルスの影響で月に2回の「コロナ休暇」があるものの、基本は大阪府豊中市の自宅からバスと地下鉄で通勤する。出社するとメールやファックスをチェック。給与計算や会議の議事録を作成することなどが主な業務だ。約20年前、社内でIT化が急速に進んだとき、すでに70歳近かったがパソコンの使い方を学び、「そろそろ帳簿とのにらめっこから一変して好奇心が止まらな

私に定年はない。働けるかぎり

15歳のときに父を亡くし、商業高校を卒業後、体の弱かった母に代わり弟や妹を養うために簿記やタイプライターの腕を生かした仕事に励んだ。
昭和31年に入社して、勤続64年。笑顔が絶えないが、課長になった40歳のとき、部下をまとめるのに苦心した。ある日、ほかの社員の退社後に1人残って全員の湯飲み茶碗を洗いがら、ふと思った。
「社員の一人一人が光るためには、私があればいい。私がいなくなると自分自身を磨くということに気づ



健康と元気の秘訣は50年ほど前から続けているヨガ。毎朝5時半に起床して30分ほど鍛錬する。3歳下の妹と同居しており「妹の料理のおかげでいつも元気になれる」とほほ笑む。人生100歳時代といわれる現代、玉置さんが働くサンコーインダストリーでも、約430人の従業員のうち60歳以上の働き手は23人にのぼる。長く、楽しく働けるコツについて、玉置さんは「長い人生の中で、一喜一憂することも多々あると思いますが、今日頑張れば、明日も頑張れる」と話す。
昨年末、同社内で行われたギネス世界記録の認定式。直前まで認定を知らされておらず、驚きながら一積小為大(小さいことが積み重なって大きなことになる)の言葉が頭に浮かんだ。
「一日一日を大切に積み重ね、会社とともに成長してきた。会社のみならず私の家族、みんなと一緒にいることが一番の幸せ」と言い切った。

ギネス認定 90歳総務部員

今日、明日、重ね勤続64年

大阪のねじの専門商社に勤務する90歳の玉置泰子さんが「世界最高齢総務部員」としてギネス世界記録に認定された。「今日頑張れば、明日も頑張れる」の精神で、会

君にこの「名言」を贈る
会社のために働くな、自分の生活をエンジョイするために働けにこい、それで一生懸命やることで会社ともどもいいとっている。

「会社のために働くな」(PHP研究所)から



ほんだ そういちろう 本田宗一郎

本田の創業者

明治39(1906)ー平成3(1991)年

小学校卒業後、自動車修理工場で働く。昭和3年、のれん分けで独立。21年、本田技術研究所、23年、本田技研工業を設立し、オートバイや自動車の世界的メーカーに育て、F1グランプリにも挑戦した。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受ける子供たちの学習に役立つ、文部科学省の「子供の学び応援サイト」のコンテンツ集に、この教育ページ「学ぼう産経新聞」のウェブサイトが紹介されています。

「文科省のリンク集」アドレス https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00460.html

「学ぼう産経新聞」アドレス <https://www.sankei.com/nie/nie.html>

読者のみなさんのご意見を募集しています

- 出前授業のご相談なども受け付けています
- (以下の質問にもお答えください)
- Q「学ぼう産経新聞」で取り上げてほしいテーマは何ですか?
- Q これからの新聞に求める役割は何ですか?
- Q 新聞以外には、何でニュースを見ますか?

住所、氏名、年齢、性別、職業(または学年)をお書きのうえ、メール (manabou@sankei.co.jp) か、〒556-8660 大阪市浪速区湊町2の1の57 産経新聞 新聞教育編集室「学ぼう産経新聞」係へ。「コトワザQ」の解答も、同じ宛先まで。正解者の中から抽選で5人に特製クリアファイルと500円分のクオカードを差し上げます。

★宛先はこちら

- ① シニア世代の働き手は増えています。総務省の労働力調査によると65歳以上の就業者数は右肩上がりが増加しており、令和2年には906万人となりました。理由は何か考えてみましょう。
- ② 働いていると、任される仕事が変わるなど突然の大きな変化に出くわすことがあります。学校や家庭であなたが訪れたとき、どう対処しますか。
- ③ 仕事は何のためにするのでしょうか。自分のため? 家族のため? それとも社会のためでしょうか。考えてみましょう。
- ④ 高齢者雇用安定法が改正され、今年4月から、70歳までの就業機会の確保が企業の努力義務となります。現役のシニア世代はますます増えそうです。
- ⑤ 「働いていて、幸せ」と言えるようになるには、今、皆さんは何をしたらよいでしょうか。

「ずっと働きたい」という思いを持ち続ける高齢者も増えています。4月からは改正高齢者雇用安定法も施行され、シニア世代が生き生きと働く姿を見るチャンスは増えるでしょう。皆さんの周りにも、仕事にやりがいを持って取り組み続けている大人は大勢いるでしょう。ぜひそういった人たちに話を聞いて、人が働くことの意義、働くことを通じて生きがいを持つ人生活について考えてみましょう。

大阪市内の会社に勤める90歳の玉置泰子さんが「世界最高齢総務部員」としてギネス世界記録に認定されました。毎朝5時半に起床して体調管理に努め、社会の変化にも持ち前の好奇心で柔軟に対応してきたといっています。人は何のために働くのでしょうか。玉置さんの場合は最初、両親の代わり家族を養うために仕事に励んだといえます。昇進してからは、部下との付き合い方に悩まながらも、社員全員が輝ける職場作りを目指して努力してきました。自分が必要とされている場所で、責任とやりがいを感じているからこそ、長く仕事を続けられるのではないのでしょうか。

「ずっと働きたい」という思いを持ち続ける高齢者も増えています。4月からは改正高齢者雇用安定法も施行され、シニア世代が生き生きと働く姿を見るチャンスは増えるでしょう。皆さんの周りにも、仕事にやりがいを持って取り組み続けている大人は大勢いるでしょう。ぜひそういった人たちに話を聞いて、人が働くことの意義、働くことを通じて生きがいを持つ人生活について考えてみましょう。

新聞教育 編集室から



大阪総局次長 安田 奈緒美